

# 新技法による壁紙開発及び市場開拓で、

## 次世代へ唐紙の活路を開く

株式会社 丸二

代表取締役

西村

和紀さん



西村 和紀さん

### 祖父から引き継ぐ表具材料卸業

株式会社丸二の歴史は、明治35(1902)年に表具師(西村高緑堂)として開業したところからスタートします。祖父の西村正雄さんは、先代から引き継いだ表具師を材料卸業に事業転換し開業。京からかみの伝承や技術者の育成等に高い功績を残されています。父の西村和雄さんは、事業を引き継ぎ法人化。代表取締役の西村和紀さんが社長に就任されたのは平成19(2007)年のことでした。現在は、和室内装材や襖、表具材料全般を取り扱い、販売のほか、施工も受注しています。特に、京からかみ事業については、古いものは180年前のものから約300枚の版木を所有し、主に寺社、茶室、一般住宅等の襖紙や壁紙として製造販売、及び施工を行っています。京からかみの文様は、江戸時代のものとは思えないほどモダンなものや、斬新なデザインのものも多数あると言います。伝統的なものに捉えられがちな京からかみですが、ベースとなる原紙と版木の文様、さらに文様の柄色を組み合わせることで全く異なった雰囲気を作り、和室だけでなく、洋室にも溶け込む可能性もあると言います。それは、長年受け継がれてきた飽きの来ないデザインの成せる業であり、日本の伝統的な内装材として町衆だけでなく公家や武士たちの間でも実用され続けてきたことが立証しているのです。



京からかみの文様が掘られた版木は、使用うちに痛みが生じるため年間数回ずつ復刻している

### 次世代の空間に合わせて

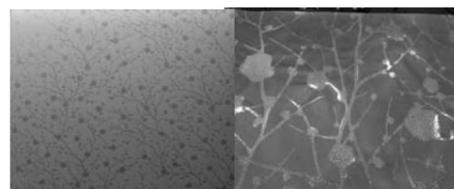
京からかみの可能性を現代のライフスタイルにも取り入れやすくしていきたいと、西村さんは本社ビルにKarakami galleryを併設し、ギフト商品の企画販売を行うとともに、実際に京からかみに触れていただけるショールームにしています。しかし、印刷技術の発展や生活様式の変化、和室の減少や類似工業製品の競合などの課題に直面し、これまで一般住宅で取り入れられていた京からかみは、今では老舗旅館や寺社、数寄屋建築など限られた特殊な空間でしか扱われない高級素材である

### 伝統製品の活用

というイメージが拭えなくなったと言います。西村さんは、京からかみを本来の役割である内装材として次世代の空間にも合わせていきたいと、新しい京からかみの表現法を開発、商品化し、広く市場を切り開こうと考えました。

その新技術とは、漆を使って文様を浮き上がらせる手法を現代風に甦らせること。京からかみは、接着剤となる布海苔に雲母や胡粉を調合して作られた絵具で摺り上げる技法が主ですが、過去には漆を用いて文様を摺る技法もあったそう。しかし、漆が大切な版木を痛める原因にもなるため、現在では行われなくなりました。漆独特の質感や色艶も日本の伝統的な素材であることに変わりなく、これを用いた京からかみを甦らすことができれば、新しい空間マテリアルとして可能性が広がるのではないかと考え、従来から襖の枠を手掛けてくださっている仏具漆塗職人の方と協力して開発に挑みました。

漆塗職人は、これまで漆を木に塗ることはあっても、紙に塗ることがほとんどなかったとのこと。漆と絵具の濃度や乾かし方、ベースとなる紙の選定など、少しずつ条件を変えて何度も試行を繰り返したそうです。また、文様については所有する伝統的な版木文様をベースに、漆の持つ質感を生かしながら現代的な広い間でも映えるよう、よりダイナミックでインパクトのあるデザインを新しく考案していきました。

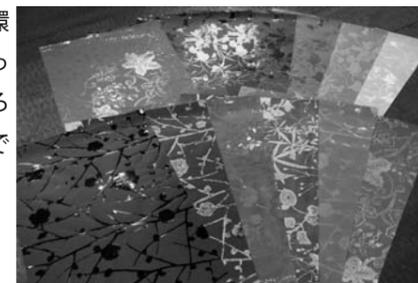


(左) 伝統的な京からかみの文様をアレンジした「漆からかみ」の模様 (右) 漆からかみの文様をアレンジした「漆からかみ」の模様

その結果、特殊な絵具で文様を摺った後に紙全体に漆を浸透させ、絵具の部分のみ漆を浮き上がらせるという、新しい技法で作る「漆からかみ」を完成させたのです。その仕上がりは繊細さを感じさせる京からかみとは全く異なり、漆の光沢のある文様がマットな和紙の上で浮かび上がり、大柄な文様には手仕事ならではの絵具のムラが個性的な表情となって光と影を演出しています。西村さんは、和テイストでありながらダイナミックで立体感のある漆からかみを、一般の住宅より大きなスペースを想定した、商業施設や店舗などに取り入れていきたいと考えています。そのためには、これまで扱ってきた京からかみと同様、国土交通大臣認定の防火壁装材材料として登録することが必須でした。この認定を受けるためにも、本来は燃えやすい素材である漆や絵具の配合を細かく変えて燃えにくい素材を追求し、漆の良さを最大限引

### きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業 平成25年度 事例集

き出す仕上がりにも妥協することなく、何度も試験を繰り返して平成25年度には試験をクリアすることができたそうです。それ以降、実務的な工程のチェックなどを経て、平成26年秋に防火認定を取得。ようやく商品化に至る環境が整ったところだそうです。



インパクトのある色彩で目を引く「漆からかみ」

### 初めての新品に期待

漆からかみの開発を振り返って、「これまで卸売業がメインだったので、新しいことを始めるための初期投資があまりなかった」と西村さん。今回、初めて応援ファンドの支援を受けて開発した新品「漆からかみ」は、京からかみの伝統や特徴を色濃く残しながらも、全く新しい質感の壁紙を誕生させることに成功しました。今後は選択肢の幅を広げるため、版木のレパートリーを8柄まで増やし、色染も12色まで安定して提供できるようになりたい、と言います。販路拡大を目指して、平成26(2014)年3月にはJAPAN SHOP(国内最大級の店舗総合見本市)へ出展、平成27(2015)年1月にはメゾン・エ・オブジェ(フランス・パリ)での出展も予定しているとのこと。京からかみのセカンドブランドとして、より可能性の幅を広げた今回の取り組みは、京都の伝統産業を横で支える新しい柱になってくれるものと期待されます。



平成26年3月のJAPAN SHOP出展の様子

### 事業概要

株式会社 丸二

<http://www.maruni-kyoto.co.jp/top.html>

代表: 代表取締役 西村 和紀

業種: 襖・表具・内装材料卸及び工事施工・表装修復、京からかみ製作発表元

創業: 昭和21(1946)年 設立: 昭和57(1982)年

住所: 〒600-8076 京都市下京区高辻通堺町東入泉正寺町462

TEL: 075-361-1321 FAX: 075-361-8876